

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3570201073		
法人名	医療法人社団泉仁会 宇部第一病院		
事業所名	グループホームぬくもりの家		
所在地	山口県宇部市木田中山田40-20		
自己評価作成日	令和3年6月17日	評価結果市町受理日	令和3年11月8日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク		
所在地	山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内		
調査実施日	令和3年7月28日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

以前は3食手作りの食事を提供していたが、職員の不足にて3食手作りは無理になってしまったが、朝食は手作りで提供している。朝食で使うみそ汁の野菜やきのこの房分けなどを出来る利用者と共にやっている。
定期的な受診・急変時でも併設の病院へ職員が付き添っている。
緑に囲まれており、季節の移り変わりを見て感じる事ができる。
ホームに来た迷い犬のクロにみんなが声をかけ動物好きの利用者さんの笑顔を見ることが出来る。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

長引くコロナ禍の下、外出できない利用者のために、お花見や夏祭り、花火、運動会、クリスマス会、誕生日会など、敷地内でできることを楽しんでいただけるよう、職員が工夫を凝らして支援しております。年齢幅が広いという職員がそれぞれの経験を活かされて、柏餅などのおやつ作りや季節の壁面飾りづくりなどを、コミュニケーション良く一緒に楽しまれ、利用者の笑顔を誘っておられます。職員は、普段から利用者と関わる時間を大切にされていて、利用者の隣に座られて会話を交わされ、利用者の思いをくみ取っておられます。面会が難しく、心配をされている御家族には、電話で日々の様子を詳しく報告され、本人との交流を図られている他、毎月の事業所だよりには写真を多く載せて、利用者の様々な場面での表情を伝えられて、安心につなげておられます。地域との交流も困難な状況ではありますが、近隣の民家の菖蒲の花見は続けられるなど、今まで培ってきた関係性を保られて、支援に取組まれています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~56で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
57	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:24. 25. 26)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	64	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:10. 11. 20)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
58	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:19. 39)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	65	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2. 21)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
59	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:39)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:5)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
60	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:38. 39)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員は、生き活きと働けている (参考項目:12. 13)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:50)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:31. 32)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
63	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:29)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念にある地域社会との交流、役割を持つことで自信を取り戻す。などめくもりの家独自の理念をつくり、ミーティング時に話し合い実践につなげている	地域密着型サービスの意義をふまえた理念をつくり、事業所内に掲示している。月1回のミーティングで唱和して職員間で話し合い、理念を共有している。理念に沿って、利用者一人ひとりのできる力を活かす支援に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ホーム周辺の地域行事、どんど焼き・夏祭り・ふるさと祭り・文化祭等への参加。また、地元保育園児とのバス遠足で交流を深めている。(現在はコロナで行えていない)	コロナ禍の影響で、これまで取り組んでいた地域の行事(ふるさと祭り、校区文化祭とお餅丸めの手伝い、保育園の行事など)への参加や事業所でのめくもり喫茶の開催、学生の実習やボランティアの受け入れなどについては、中止している。利用者は小学校のどんど焼きに参加している。事業所だよりを法人の病院外来や通所リハビリ施設、特別養護老人施設などに配布し、掲示している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域事業所等にホーム便りの配布、掲示をさせてもらっている		
4	(3)	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	全職員が記入し、評価の意義を理解している 内容はミーティング時に話し合い、問題点があれば改善に向けて話し合っている	管理者が評価の意義をミーティングで説明し、職員に自己評価のための書類を配布して、全職員が項目ごとに分担して記入したものをミーティングで話し合っ、管理者がまとめている。職員不足のため、課題とした内部研修の充実を図ることはむずかしかった。	・評価を活かす取り組み
5	(4)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度開催していましたが、コロナが流行し来てもらうことが困難になった為、書面での開催にしている	会議は2ヶ月に1回、利用者の状況やサービス内容、行事の予定や報告、避難訓練について、外部評価結果の検討などを行っていたが、コロナ感染拡大防止のため中止し、書面を送付している。メンバーからの意見はない。	・運営推進会議を活かした取り組み ・メンバーの拡大 ・意見を得る工夫 ・報告書の内容の検討

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の 実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えな がら、協力関係を築くように取り組んでいる	高齢者総合支援課、運営推進会議担当者 と連絡を取りながら、サービス向上に取り組ん でいけるようにしている	市担当者とは、運営推進会議録を送付し、電 話で相談をして助言を受けたり、情報交換を しているなど、協力関係を築くように取り組ん でいる。地域包括支援センター職員とは、法 人の地域連携室を通して連携を図っている。	
7	(6)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サー ビス指定基準及び指定地域密着型介護予防サー ビス指定基準における禁止の対象となる具体的 な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて 身体拘束をしないケアに取り組んでいる	マニュアルを作成し、一人一人にあったケア を考えることで拘束しないケアの実践をして いる。 ミーティング時モニタリングを行い日々のケ アに活かしている。	3ヶ月に1回開催している法人の身体拘束委 員会は、会議が行えず参加していない。職員 は身体拘束についてマニュアル等で学び、 ミーティングや気づいた時々に話し合っ て認識を深め、抑制や拘束のないケアに努めてい る。スピーチロックについて気になる場所は、 管理者が指導したり、職員同士で注意しあっ ている。玄関に施錠はせず、外に出たい利用 者とは職員と一緒に散歩するなど、気分転換 の支援の工夫している。	
8		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法につ いて学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内 での虐待が見過ごされることがないように注意を払 い、防止に努めている	コロナの影響で院内外の研修はないが、虐 待が起こらないよう職員の間で気を付けてい る		
9		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年 後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要 性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支 援している	利用者2名が成年後見人制度を利用されて いる為、職員は制度が活用できるよう支援し ている		
10		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者 や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を 行い理解・納得を図っている	契約時には家族と管理者で十分な話し合 いが行われている 改定時には書類で説明し理解してもらっ ている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情や相談の受付を明確にしている。面会時日々の生活・近況を報告している。月1回の事業所通信にて利用者の様子を伝えている	契約時に、苦情や相談の受付体制や処理手続きについて家族に説明している。面会時や介護計画作成時に、家族からの意見や要望を聞いている。月1回の事業所だより送付時に、利用者を担当する職員が利用者の状況を家族に知らせて、家族からの意見が出しやすいよう努めている。個別のケアについては家族と情報交換して、その都度対応している。家族会や家族が参加するお誕生日会等の行事が行えず、家族から意見を聞く機会が減り、運営に反映させるような意見は出ていない。	
12	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のミーティングやカンファレンス等で意見・提案を聞くようにしている	月1回のミーティングや日々の申し送り、カンファレンスなどで職員からの意見や提案を聞いている。管理者は、日頃から職員に声をかけるなど意見を言いやすい環境をつくっている。職員からの提案で、利用者同士の関係改善のため、部屋や座る位置の工夫をしたり、トイレ誘導の順番を変えるなどのケアの工夫をしている。職員の意見からカンファレンスノートを活用して、職員同士のコミュニケーションの改善に繋ぐなど、意見を運営に反映させている。	
13		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人として山口男女共同参画推進事業者の認定を受けている。年2回の健康診断やストレスチェック等も実施している。介護職員の処遇改善を行っている		
14	(9)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	コロナ禍の為法人内外の研修を受ける機会は確保できないが教育委員会の企画する院内研修はDVDを使って全員が参加している	外部研修は、職員に情報を提供し、希望や段階に応じて受講の機会を提供しているが、この1年は参加できていない。法人研修は、年4回、医療事故(針刺し、ヒヤリハット報告)や感染(新型コロナウイルス感染症、手指消毒)について、DVDによる研修を実施し、各自が視聴している。内部研修は、ミーティング時に法人研修の伝達をしたり、訪問看護師が週1回の来訪時に緊急時の対応や日頃のケアについて指導している。新人は、法人の研修を受講し、日常業務の中で管理者や先輩職員から働きながら学べるようにしている。	・内部研修の充実

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍の為本年度はできていないがコロナ終息後は、ネットワーク作りや勉強会等参加していきたい		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
16		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	一緒に食事やおやつを食べながら会話をし、不安に思うこと困ったことを話しやすく安心できる関係づくりに努めている。		
17		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービスを利用されるまで家族の不安や困っていることに耳を傾け、話しやすい姿勢で対応し受け止めている		
18		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時今一番必要とされる支援は何かを本人・家族を交え話し合い必要であれば他のサービスとも連携をとっていくようにしている		
19		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々の暮らしに必要な食事、掃除等何でも一緒に出来ることは行ってもらい、分からないことを話し合いながらお互いを尊重しあい生活を送っている		
20		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者の変化も常時報告し家族とは密に連絡を取り、月1回のホーム便りと共に、利用者の様子を手紙にて伝えている		
21	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者の状況に応じた家族の外出・馴染みのスーパーへ職員と買い物など個別に行くよう努めている。いつでも来ていただけるようにしているが コロナの為面会は控えてもらっている	家族の面会や年賀状や電話での交流、家族からの差入れ(誕生日ケーキ、花、メッセージカード)の活用など、交流が途絶えないよう支援している。交流が制限される中、目や耳がいい利用者は事業所の入り口で距離をとって面会してもらったり、職員のLINEでLINE通話を支援するなど工夫している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ソファ・テーブルの配置、座席などに気を配り利用者同士が関わりあえるよう努めている トラブルがあった場合職員が間に入り孤立していると感じたときはさりげなく側に行き関わるようにしている		
23		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	併設の病院に入院されている方は利用者と共に散歩時面会に行ったり他の病院に入院された方に対しては時間を取り面会に行き今迄の関係を保つようしている コロナの為病院への行き来は今はしていない		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
24	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入所時家人・本人と面談し意向の把握に努めている センター方式のシートに記入を依頼しケアプランに活かしている。困難な場合は生活の中から探り出して検討している	入居時にセンター方式のシートを活用し、家族から基本情報や生活歴を聞き、アセスメントしている。日々の関りの中で、利用者の日頃の様子や言動をケース記録やカンファレンスノートに記載したり、月1回のミーティング時に利用者全員のモニタリングを行い、利用者の状態や気持ちの変化を把握するように努め、思いや意向を把握に取り組んでいる。困難な場合は、家族の意見を聞き、職員間で話し合い、本人本位に検討している。	
25		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族へセンター方式のアセスメントシートの記入をお願いし、生活歴、馴染みの暮らし方等把握に努めている 本人から生活歴等情報収集している		
26		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	排泄表・ケース記録・受診時の記録・訪問看護の記録等を参考にして心身状態・本人のできる力の把握に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月1回のミーティングでモニタリングを行い皆の意見や今後どうすれば本人がより良く暮らせるかを話し合いケアプランに活かしている	本人の思いや家族の意向を基に、かかりつけ医や訪問看護師等の意見を参考にしてカンファレンスを行い、介護計画を作成している。月1回ミーティングで全利用者のモニタリングを行い、介護計画評価表を作成して、状態の変化を把握している。6ヶ月毎に計画の見直しを行う他、本人の状態に変化が生じた場合は、その都度話し合い、現状に即した介護計画を作成している。	
28		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録やカンファレンスノートを利用しミーティング時に皆で話し合い情報の共有に努めている		
29		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	共同生活である為個人のニーズに対応できない場合もあるが、本人・家族からの要望があれば、皆で話し合っ柔軟な支援に取り組んでいる		
30		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナの影響で外出も出来なく地域のイベント参加も今はできないが、コロナが終息し地域でのイベントも参加出来ることを望んでいる		
31	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所時に家族・利用者へ併設の病院へ協力を得ている。臨時受診も可能な事の説明もしている。	本人や家族の同意を得て、全利用者が協力医療機関をかかりつけ医としている。月1回の定期受診を支援する他、他科受診は、家族の協力を得て事業所が支援している。週1回、訪問看護師が来訪して、利用者の健康チェックや職員の相談、指導をしている。緊急時や夜間は協力医療機関の訪問看護師の指示を得て、適切な医療を受けられるよう支援している。	
32		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	月2回訪問看護が入っており、その時々で変化を伝える。相談も行う。24時間体制も整っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時は職員が付き添い、情報交換をしている。 緊急時に備えて、サマリ・情報を準備している。		
34	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	必要に応じて管理者とインフォームドコンセントを実施する。 また家族の希望に添えるようミーティングやケアカンファレンスを行い支援する。	契約時に「重度化した場合における対応に関わる指針」を基に、事業所で対応できることを家族に説明している。実際に重度化した場合には、早い段階から利用者や家族の意向聞き、主治医や看護師と相談して、ミーティングやカンファレンスで全職員が移設も含めて方針を決め、共有してチームで支援に取り組んでいる。	
35	(15)	○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	日常の小さなことでもヒヤリハットを活用している。 訪問看護と連携をして、応急手当初期対応について学び実践している。	事例が生じた場合は、当日の職員が話し合っ て、ヒヤリハット報告書や事故報告書に記載し、管理者や法人に報告している。他の職員には申し送り時に報告し、全職員に報告書を回覧して共有し、月1回のミーティングで再度話し合い、再発防止に取り組んでいる。訪問看護師から来訪時に、応急手当や初期対応、外来受診時の情報伝達などについて指導や助言を得ている。	・全職員が応急手当や初期対応の実践力を身につけるための定期的訓練の実施
36	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	緊急時のマニュアルがあり、病院や施設から応援が仰げるよう連絡網がる。年2回火災訓練があるがコロナの為行えておらず。職員不足の為、ホーム内の訓練もできておらず。	この1年はコロナ禍のため、法人他施設や病院と合同で行う火災訓練や、事業所独自の避難訓練は実施していない。「緊急時マニュアル」があり、法人間の緊急連絡網を整備し、連絡網の再確認をするなど、災害時には法人他施設の協力を得られるよう協力関係を築いている。飲料水や食料の備蓄をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
37	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人を尊重し尊厳を守ることを心掛けた声かけを行っている 訪室時には必ずドアをノックして声を掛けている	職員は、法人の接遇委員会が行う毎月のチェックリストを活用して、月1回のミーティングで話し合い、自身の行動を確認しながら、人格の尊重とプライバシーの確保について理解している。職員同士でも不適切な対応等がないかを確認して、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応に取り組んでいる。	
38		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の希望を伺うことのほかに選択が困難な方には選択肢を絞り自己決定ができる環境を作っている		
39		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者はリビングに居るのが落ち着かれるよう自由で過ごして頂いている 一人になりたい時には居室で臥床されている		
40		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に訪問美容を呼び散髪をしている 入浴後には居室で化粧水をつけたりと整容できるよう支援している		
41	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	朝食時職員が一人なので利用者に盛り付け配膳を手伝ってもらっている その間に空いた鍋洗いやお米研ぎなども行ってもらっている	昼食と夕食の副食は業者の配食を利用し、朝食やご飯の調理は事業所で行っている。利用者はお米研ぎや野菜の下ごしらえ(豆の筋取り、キノコの房分け)や盛り付け、配膳、台拭き、トレー拭き、食器洗い、鍋洗いなど、できることを職員と一緒にしている。利用者と職員は、同じテーブルで食事をしている。月1回、行事食の日(おせち料理、七草がゆ、節分の海苔巻き、花見弁当、敬老会、月見うどんなど)を設け、その日に合わせた誕生日会には、ケーキを用意している。おやつ作り(柏餅、三色おはぎ、カステラ饅頭)や手作りデザートパイキング、そうめん流し、夏祭り(ポテト、たこ焼き、かき氷)、運動会(パン食い競争)など、食事を楽しむことができるよう支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	カロリー計算や水分量をチェックしながら目標水分量や栄養を満たせるよう支援している		
43		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを実施している 歯科医と連携しながら義歯の調整等もやっている 歯ブラシも一ヶ月毎に交換している		
44	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	一人ひとりの力や排泄パターンを把握する為排泄表を活用し、時間を見計らって声かけ誘導をしている 布パンツ、紙パンツ、パットの利用についても個々に対応している	排泄チェック表を活用してパターンを把握し、時間を見図りながら、利用者一人ひとりに応じた声かけや誘導を行い、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	
45		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェックを毎日行い水分補給や散歩、体操を心掛けている 排便困難時には冷牛乳等で対応している また、臨時薬も処方している		
46	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	一応時間帯は決まっているが、一人ひとりの希望に合わせて臨機応変に対応している 入浴の順番が偏らない様に配慮している	10時から11時まで、2日に1回入浴できるよう支援しており、希望すれば毎日、いつでも入浴できる。利用者の状態により、シャワー浴や清拭、足浴などの支援を行い、季節に合わせてゆず湯などを楽しんでいる。入浴したくない利用者には、無理強いをせず、職員の交代や言葉かけの工夫をしている。	
47		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活習慣を把握しその時に合った声かけをしている 安心して気持ちよく寝られるように季節に合った寝具を使用し定期的に洗濯し清潔保持に努めている		
48		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の処方個人ファイルに綴じている 全職員が把握できるよう記録し、服薬の支援と症状の変化を確認している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(21)	○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食事の手伝い、洗濯干し、洗濯たたみ、雑巾縫いや工作等個々の力を出せるよう支援している また、散歩を行い気分転換の支援をしている	節分豆まき、ひなまつり、母の日、ぬくもり運動会(パン食い競争、太公望、玉入れ)、ぬくもり夏祭り(千本引き、ヨーヨー釣り、輪投げなど)、七夕の笹飾りづくり、敬老の日、クリスマス・忘年会、お楽しみレク、ハロウィン、誕生日会、歌を歌う、新聞や雑誌を読む、テレビやDVDの視聴、ラジオ体操、リハビリ体操、ボーリング、トランプ、カルタ、オセロ、パズル、ぬり絵、おやつ作り、工作(紙のぶどう、どんぐり人形、干支の色塗り、おひなさまの貼り絵)、食事の準備や片付け、洗濯物干し、洗濯物たたみ、雑巾縫い、手すり拭き、タオル交換、雑巾がけ、掃除、保護犬の世話など、楽しみごとや活躍できる場面づくりの支援をしている。	
50	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	新型コロナウイルス流行によりショッピングや地域の行事参加は自粛している	恒石八幡宮への初詣、小学校のどんど焼、近隣の人の協力を得ての民家の菖蒲の花見、コンビニエンスストアでの買い物(お菓子、ジュース)などの外出の機会を作り、敷地内での桜やツツジの花見、敷地内の散歩、事業所前での花火、プランターの花や野菜の水やり、ウッドデッキでのおやつなど、戸外に出かけられるよう支援している。	
51		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理は職員が行い散歩がてら売店で買い物したりしている。希望があれば預り金から、職員で買い物することもある。		
52		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の要望があれば職員がかけて会話してもらっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関前やウッドデッキに花や野菜を植えて季節を楽しんだり感じたりしている。 台所はオープンキッチンになっておりみんなで作業できる。	観葉植物のある玄関を抜けると、総ガラス張りの窓があるリビングと食堂、アイランドキッチンが広がっている。窓の向こうのバルコニー越しに緑が広がり、明るい陽ざしが差し込んでい る。利用者は、大型テレビの前の大きなソファや食卓、畳の間にゆったりと過ごすことができる。廊下には絵手紙や折り紙などの利用者の作品を飾り、事業所だよりを掲示している。感染防止のため玄関入り口に消毒用のジェルを置き、外出後には必ず手洗いをしている。温度や湿度、換気に配慮し、居心地よく過ごせるように工夫をしている。	
54		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングテレビの前にソファを置き自然と行き来出来るようにしてある。		
55	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前に家族・本人と話し合い今迄使っていた物を持参してもらい、慣れ親しんだ物の中で生活できる工夫をしている。	テレビやテーブル、イス、整理ダンス、籐イス、衣装ケース、時計、趣味の道具、日用品など利用者の使い慣れたものや好みのものを持ち込み、本人や家族の写真、人形、手作りカレンダー、折り紙の作品などを飾って、本人が居心地よく過ごせるように工夫をしている。	
56		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室を間違えないように、居室前にネームプレートをつけている。 またトイレなども分かりやすいように表示してある		

2. 目標達成計画

事業所名 グループホームぬくもりの家

作成日：令和 3 年 11 月 1 日

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	4	自己評価、外部評価を受けて評価を活かした取り組みを行う	内部研修の充実	職員不足は続いているが、職員一人一人が内部の研修の向上について意識する様、毎月のミーティングでの話し合い	1年
2	5	運営推進会議を活かした取り組みメンバーの拡大、意見を得る工夫 報告書の内容の検討	運営推進会議における議題から意見を得る様にする メンバーの拡大	運営推進会議の議題から意見を得られるような資料作り 自治会長、民生委員、地域住民の参加の呼びかけ	1年
3	14	ホーム内独自の研修	職員一人一人が専門職へ意識を高める為のホーム内の研修	ミーティング時に担当を決め、二ヶ月に1回ホーム内での研修を行い、記録に残す	1年
4	35	全職員が応急手当や初期対応の実践力を身につけるための定期的訓練の実施	応急手当、急変時の初期対応の指導を受けた時の記録を取る	訪問看護師、外来にて急変時等の対応は聞いたりしているが、記録に残せていなかった。記録に残し、ミーティング時の勉強会等に活かしていきたい	1年
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。